

音楽研究会 部会記録

日時 平成29年9月6(水) 15:30~16:45

部会名 音楽づくり 主任 吉田 百合子

参加数 14人 司会 日吉 ちづる 記録 阿部 祐子

研究部 研究テーマ：子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業のあり方

部会テーマ：一人ひとりの発想を生かし、思いや意図をもって音楽をつくる活動

○基礎提案

- ・「クラッピングミュージック」の鑑賞から、楽曲の仕組みを知り、実際に演奏体験をする。
- ・子どもにもできるリズムに変え、①はじめ 中 おわり の3部構成にすること ②基本パターンのリズムを「ずらす」ということ の2つを約束事として音楽づくりをする。
- ・重なりの増減や音色の工夫などの価値づけをすることができる。
- ・「ずらす」という工夫のポイントは絞られているが、重なりや音色など、今までの経験を生かして広がっていく、高学年向きの活動だと感じる。

○実践提案 「音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくろう」

～さくらさくらの音階で校長池の桜を表現する音楽をつくろう～ 5年生

- 研究内容
- ・音階の特徴を理解すること、旋律線で思いを表すこと、音楽の仕組みを生かして音楽をつくることを身に着けられるような指導計画を立てた。
 - ・導入の仕方によって、子どもの活動の充実度が変わる。今回は、学校の特徴や特活などと結びつけて、校長池の桜を表現のもとにすることで、一人ひとりが思いをふくらませることができた。
 - ・ミニグロックンを用いることで、隣の音に動く過程も分かりやすく、誰もが安心して活動できた。また、一つの教室で活動しても、音が耳障りにならず、居心地の良い環境だった。
 - ・リズムは、「さくらさくら」の冒頭4小節をそのまま活用した。
 - ・グループで旋律をつなげる活動の際にストーリー性をもたせ、その流れに合うように旋律をつくり変える子どももいた。

(協議)

- ・鑑賞のタイミングによって音楽づくりが変わっていくのではないかと。今回は3時間目に「さくら変奏曲」を鑑賞したが、どのような効果があったのか。
→旋律の変化による感じ方の違いについて、気づきはたくさんあったが、実際につくる旋律にいきていたとは言えないところがある。リズムをつくり変えて、16分音符を使っている子はいた。
- ・伴奏は「ラ」と「ミ」の音を使っていたが、音階を考えると「ミ」と「シ」なのではないか。

○12月研究授業について

- ・音階はさくらさくらの音階に絞る。
- ・思いをもたせるために、本町小で大切にしている「百年桜」を表現するもとにする。
- ・楽器は、リコーダーだけでなく箏やミニグロックン、オルガンで箏の音色を出すことも考えている。
- ・旋律をつなげるだけでなく、重ねることもできないか。
- ・箏でもリコーダーでも同じように旋律をつくる、箏をメインにしてリコーダーで飾りをつける、箏を伴奏にしてリコーダーの旋律をのせるなど、音の重ね方をどうしたらよいか。
- ・共通事項として、どんな仕組みをねらうべきか。変化、反復で迷っている。